

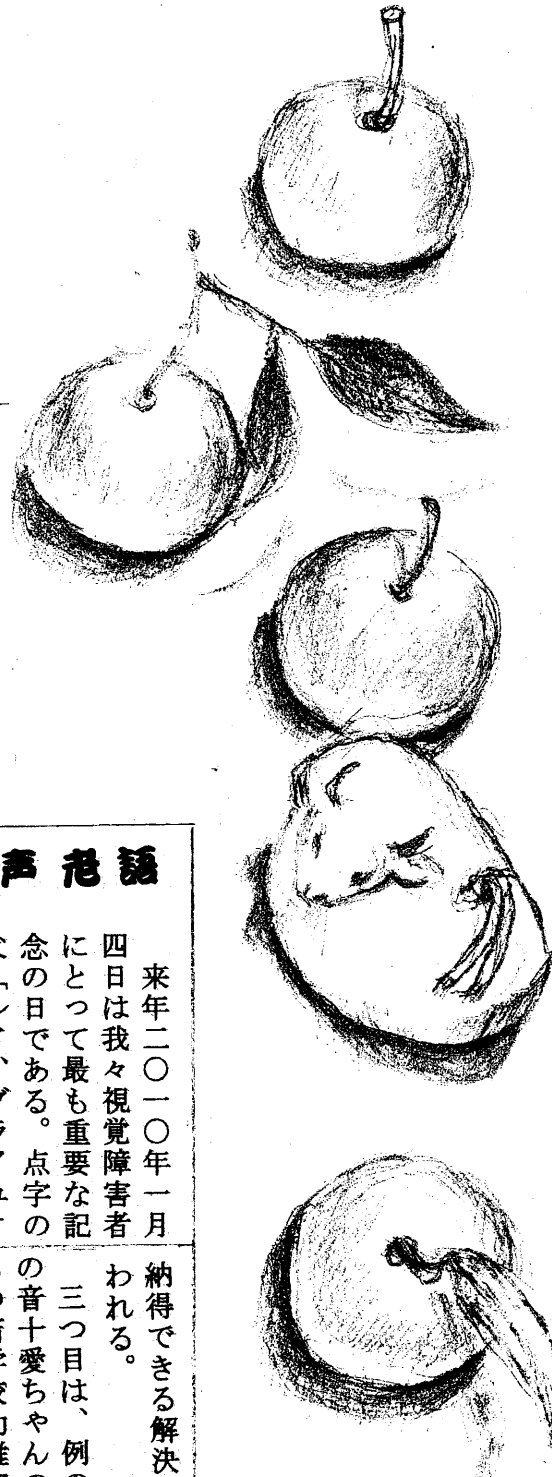
高退協ニュース

高退協
事務局

2009.
1.1
NO 156

〒780-0850 高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸の内2丁目1-10
TEL 088-1822-1168
088-1822-1189
088-1822-1189
郵便振替口座 0165012111893

785-0008
須崎市中町一丁目
1-1
小松 澄子 作



年頭挨拶

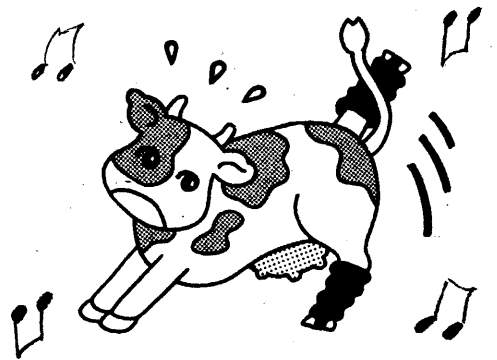
音楽とともに
運動を

会長 三谷隆彦

新年おめでとうございます。

米寿を超えた濱田昌俊氏は毎朝5km走っています。そして毎年親睦旅行に参加し、今回も大阪府堺市へ行った記録や写真を望年会に展示してくださいました。井垣政利氏は昨年定年退職し高退協常任委員になり、秋にはヒマラヤ登山隊に加わりました。20kgの荷物を背負い連日山道を四〜九時間歩きました。いずれ詳しい報告が聞けるでしょう。

仕事をしているときは体を動かさず、労働の働は人が動くかします。労働の働は人が動くかします。でも最近静止してする仕事を発見しました。それはエスカレーターの手すりの清掃です。雑巾を両手で手すりに当て足を前後に踏ん張って静止していますと、手すりが電気力で回ってきれいになります。しかし一般的に仕事を辞めると、体を動かさず体力が衰えます。高齢になっても体力を維持するために運動を続けましょう。重い物を持ち上げるとき「一二の三」と声を出すと重い物でも軽くなったような気がします。



行動を促進する音や旋律をこころでは音楽とします。二二の三」も音楽です。早朝のテレビ体操もピアノの伴奏があります。太極拳はゆったりした曲に、エアロビクスは速い曲に合わせます。日本舞踊や西洋から入ったダンスも音楽に合わせます。東南アジアの踊りは目玉や指先も動きます。運動が苦手な方も何か音楽をともなった快い運動で体力が付きそうです。私は筋力や平衡機能を測定して年齢相応の計画を立てます。

戦前は天皇の家来である臣民として強い軍人になるために体を鍛えました。現在は個人の人生を楽しむために丈夫な体を作ります。また今年は総選挙の年です。展望が開ける政府を作るためにも継続的な運動で体力の増強をはかりましょう。

港声

来年二〇一〇年一月四日は我々視覚障害者にとって最も重要な記念の日である。点字の父「ルイ・ブライユ」生誕二〇〇年の日だからだ。人類が文字を手にしたのは五万年前のことだそうだが、視覚障害者は一九〇年前までの長い長い間文字を持っていなかった。だから、先人たちは想像を絶する苦勞を強いられたと聞く。

三歳で失明した彼「ブライユ」は、パリ訓盲院在学中十歳にして、軍隊において使用していたという暗号「夜の文字」にヒントを得て、世界初の「点字」を考案したのである。期せずして、今年その前哨戦化のように、県下の視覚障害者が決起し、大きな前進をもたらしたことは素晴らしい。

まず、六月には県庁での採用試験に点字試験導入が決まった。高知大在学中失明の吉岡君が先頭に立って運動に立ち上がった。彼は盲導犬とともに議会に通り、また、知事の前では、「音声パソコンを使用している視覚障害者における事務能力」を示したばかりか、他県での実績を示す数多くの資料を携えて、県議会の「意見陳述」をも行った。そして、先日十一月三十日、四国初の点字試験を受けたのである。

活動日誌
一月一日 九条の会講演集会
一月二日 県教育研究集会
一月四日 事務局会
一月十一日 親睦旅行
一月十七日 四プロ交流会
一月十八日 望年会
一月二十日 望年会
一月二十四日 望年会
一月二十八日 望年会
一月三十一日 望年会



納得できる解決だったとも思われる。
三つ目は、例の「三歳盲児の音十愛ちゃんの事。母親からの盲学校幼稚部入学要求に對して、県教委は、「頸管栄養」を理由に拒否した上で医療機関併設の養護学校を勧めたのだ。視覚障害者が盲学校での教育を求めるのは当然の権利である。
やはり、当事者であるお母さんが先頭に立って、マイクを握り、街頭署名を行い、また、教育長に對して堂々と思いを語った。私は今、ツルゲイネフの母の「愛は死よりも死の恐怖よりも強い」のあの名言を想起している。望みの適った今、母の胸には未来の我が子への限らない夢が広がっていることと嬉しく思う。
来年はまた、「障害者の権利条約」が国内でスタートする年になる。悪法「自立支援法」を廃棄して、「障害者が真に人間らしく生きる」元年にしたい。私たちは今年の実りを糧に、皆で手を携えて頑張りたい。
(正岡 光雄)

今、高教組は

倉橋楠雄

「うちは九ジョウウじやない!」「え?..、これは憲法改悪反対、戦争を放棄した九条を守り、平和のために生かそうという署名なのがやけど..」「そんなことをいうても、うちは九ジョウウじやない。四畳半じゃ!」

快晴の午後、高教組安芸支部による、安芸市産業祭会場での街頭署名の一幕でした。大阪から帰省しているというこの愉快なおばさん、自分ばかりか知り合いも連れてきて、快く署名に応じてくれました。

高教組は、月一回のペースで「憲法改悪反対」の街頭署名活動を行っています。「各支部でも」の本部からの要請に応じ、安芸支部が行動を起こしてくれました。

会場ではカラオケ大会が行われており、残念ながらマイクを使つての街頭活動はできませんでしたが、声がけすればほとんどの方が署名に応じてくれ、短時間で用意した署名用紙をすべて埋めることができました。

四国ブロック交流集会報告

自由民権の講演好評

第一七回全退教四国ブロック交流集会が十一月十日十一日の二日間「かんぼの宿 伊野」で行われました。四国全体で九十九名参加し、その内八名が高知高退協でした。各組織から「九条の会」での活躍、会員相互で電話をかけるとか訪問するなど報告がありました。また農産物の生産を手掛けている会員もいます。雑草を抜き、無農薬の野菜を近所に配って喜ばれています。小豆島から参加の九〇歳の女性はダム建設反対の先頭に立って闘っています。懇親会では高知高退協加藤敏恵さんの歌や踊りで和やかな雰囲気盛り上がりしました。

公文豪氏は記念講演で「人民は自由と権利を守るために政府をつくる」と植木枝盛が主権在民を提唱したことを論証しました。この講演はたいへん好評でした。

(三谷隆彦)

署名に協力してくれた中学生の中には「九条って何?」との声もあり、日頃の教育活動を反省させられる場面もありました。しかし、「これは《九条は宝》の方の署名ぞね」と念を押して署名してくれる人もいて、安芸地区のここで見られる山岡先生直筆の「九条は宝」の立看の浸透ぶりがうかがえました。日頃の地道な活動の大切さを認識した一日でした。

今、高教組は、憲法改悪阻止のための、署名活動と共に、全教の提唱する「三億円基金確立運動」に取り組んでいます。具体的には、高知高教組で一四〇万円のカンパを集約するというのが目的です。

私たちは憲法改悪阻止のため全力で取り組む決意です。今年もよろしくお願ひします。

私の「ボウオンネンカイ」

松山 和雄

きっかけはスキーだった。今から三十年くらい前だろうか、シマモト氏とは家も近所だったこともあり、おたがいの奥方の目を盗んでは次々にスキー用具を購入し、雪山にもスキーに熱い火花を散らした。以来、体力づくり始めた自転車や、テニスでもライバル意識むき出しに競いあった。二人してスポーツジムにも入会した。退職後は「男の料理」で勝負とばかり料理教室にも二人して幾度か足を運んだ。しかし、互いの認識するところ三勝二敗一分けというところでもうにも決着がつかない。そこで、互いの「人生を賭けた勝負」をしようということになった。どちらが長生きをするかという、まさに命を賭けた戦いである。

二人の間にそんな緊張感の漂う十二月四日、高退協望年会が例年を上回る参加者で盛大に開かれた。そのステージで参会者のおだてにのり、シマモト氏の哀愁を漂わせながらもそこはかとなく気品あるバイオリンを伴奏に、私の初恋の想い出の歌「女ひとり」を歌った。その時、私は「インネンかつオンネン」のライバルであるシマモト氏との共演が心安らぐ感情に包まれていることに気づいた。

今年の望年会は、私にとって「忘オンネン会」となった。これからは、それぞれの特技や個性を生かして共存共演をしていこうと思った歴史的な一夜となった。

鏡 日向あき著

眼「はりまや橋」

老をわたって

宮川 敏彦

著者は集団就職で名古屋で働いた後、高知に帰って、高校・大学に学び、高等学校の教員になって、高知市内の高校定時制を最後に退職されました。

半世紀近く前、私の同級生の多くも集団就職で京阪神や愛知県などへ働きに行きました。私の兄弟の三番目も中学校卒業と同時に大阪へ行き、た少女を軸に小説に書いて下さり、お礼を申し上げます。

この作品は今様に「おもしろい」ものではありません。長塚節が『土』で貧しい農民



集団就職を素材に

谷内純一 70

(香南市野市町土居)

知人のすすめで日向あき著「はりまや橋をわたって」という小説を読んだ。読み終えたときもつと読みたいと思ひ、たいへん優れた作品だと感じた。著者は県内在住の方であり、自らが十五歳で集団就職して行った経験が下敷きになっている。知人の話では集団就職を素材とした小説は少ないそうだ。

集団就職のバスに乗る朝の情景からこの物語は始まる。集団就職をせざるを得ない時代や家庭環境の中で、少女が決意し、けなげに生き抜こうとしている姿は、私たち庶民の姿と等身大であり、読み進めるうちにいつしか主人公の気持ちに素直に同化している自分に気付く。

を描いた時、夏目漱石が「娘にせひ読ませたい。おもしろいから読めというのではない。苦しいから読めと告げた」と書いたのは有名です。しかし、日向さんは、苦しいだけでなく、夢を持ち懸命に生きる青春像を描きました。

なお、「はりまや橋をわたって」については、谷内純一さんが、去る十一月一日に高知新聞の声ひるばに投稿されていますので、転載します。



この作品は大人はもちろんだが、中学生や高校生にぜひ読んでもらいたいと思う。主人公「久美」の姿は中学生や高校生たちに寄り添い、あるいはそっと背中を押してくれるような気持ちにさせてくれると思う。

以前、私の教職在職中に校長先生が「生徒とともに汗を流す先生は大変立派な先生ですが、さらに立派な先生は生徒の心に灯をともし人ですよ」と話してくれました。この本はまさに灯をともしてくれる作品だと感じた。この本が県内のみならず全国の中高生に読まれることを期待してやまない。

再再度 会費納入について

お願いします

本年度も残り少なくなりました未納の方は、年会費2000円の納入をお願いします。納入の領収書などお確かめくださいますようお願いいたします。事務局一同

相撲ミニ知識 (八十六)

林 勤

相撲協会八十年を振り返る
十、昭和六十一年〜平成二年
昭和六十一年

○一月 第59代横綱隆の里引退。

○九月 第60代横綱双羽黒誕生。残念乍ら双羽黒は一度の優勝もない只一人の横綱である。

○十一月 千代の富士は三月場所(関脇保志が優勝以外の今年五場所)で優勝。

昭和六十一年

○七月 第61代横綱北勝海初の外国人大関「小錦(ハワイ)誕生。

○十一月 第62代横綱大乃国誕生。

昭和六十三年

○二月 土俵の鬼と言われた元横綱初代若乃花の二子山理事長誕生。

○三月 元大関「貴ノ花二世」デビュー。(若花田)後の横綱若乃花と貴花田(後の横綱貴乃花)。

○十一月 千秋楽に千代の富士は大乃国に敗れ、五十二連勝でストップ(一位は双葉山の六十九連勝。以下谷風六十三連勝、梅ヶ谷五十八連勝、太刀山五十六連勝)。

平成元年

○七月 史上初の同部屋横綱の優勝決定戦(九重部屋)の千代の富士と北勝海で千代の富士の勝。

○九月 千代の富士、国民栄誉賞を贈られる。相撲協会も「二代年寄り千代の富士」を贈ろうとしたが当人が辞退。別に土俵上で特別顕彰される。

○十一月 貴花田は17歳2月で史上最年少関取となる。

平成二年

○九月 第63代横綱旭富士誕生。

○十一月 千代の富士三十一度目の優勝(大鵬三十二回)に次ぎ史上二位となる。

大浜の土俵

高退協親睦旅行(十一月六、七日。堺の案内を見た時から、「こゝへは是非いつてみたい。でも

道路事情や日程等の関係で寄つてもらえるかどうか?」と、ずつと心配、気懸りであった。こゝとは「大浜の相撲場」である。前日に三谷先生、添乗員さんに相談したところ、寄つてもらえることになったので、胸おどらせ乍ら相撲場へ向かった。

全国中等学校相撲大会現在のインターハイに匹敵は大正八年にこの土俵で始つたが、第一回大会でいきなり高知一中(追手前高校の前身)が優勝し「相撲王国土佐を全国に宣言し、その後も団体では高知一中、高知農業、高知商業、高知工業、安芸中、高知師範等が個人では前田(高知一中)、高石(高知商業)、小島(西沢共に安芸中)、大島(高知師範)等が、優勝又は上位入賞を果し高知の相撲実力を遺憾なく發揮してきた土俵である。

嘗て先輩等が「わしらの時分には優勝せんと、入賞くらいでは太い顔は出来さつた」と言っていたが、この赫々たる成績は、昭和35年頃(第40回大会)頃まで続くが、その後は残念乍ら下降傾向にある。「相撲王国土佐」の復活を希うや切である。この時代の話をすると、添乗ガイドさんが「今まで何も言わずにこゝ(堺)を通過していたが、これからはこの土俵のことをお話ししたい」と言つてくださったのはうれしかった。

林 勤

高退協親睦旅行 in 堺

今年の旅には特別の思い入れがあつて夫は早々と一人で参加申し込みをしていた。日程の中に大浜が入っていたからである。大浜のメインはかわいく美しい旧灯台で堺のシンボルとなつてゐるが、お目当ては高知が嘗て相撲王国といわれた原点の相撲場を一目見たい一心での参加。一雨あるかもと傘を用意していたが行動中にはほとんど降らず幸いなことであつた。

素敵なフランス料理の昼食の後仁徳陵古墳一周で軽く足慣らし大仙公園の仲庵でお抹茶をいただく。高退協の旅はいつも心憎いまでの気配りがある。この一服には心が安らいだ。

堺刃物伝統産業館ではここから全国、土佐へも技術が渡つたという歴史を学んだ。私はおろし金を買う。

二日目は堺市立文化会館の与謝野晶子文芸館とアルフォンスミュシヤ展へ、晶子の肉声の短歌朗読が聞けた。晶子生家跡、ザビエル公園はバスの窓から。

千利休屋敷跡には、利休が産湯にも茶の湯にも使つた井戸が残されていて、今も水をたたえていた。

堺事件で土佐藩士十一人が壮絶な切腹を果した妙国寺、蘇鉄でも有名なところ。夕暮れのため切腹を留められ、菩提をとむらつて逝つた一人を合わせ十二人の墓は寺の向かいにある幼稚園の庭に並んでいた。寺に展示の天目茶碗が小ぶりだった。

どの場所にもボランティアの方が待機してて詳しく解説があり、たつぷりの時間で落ち着いて見学ができた。十二階の360度の展望を満喫し、ラストは大浜公園相撲場と、かわいい灯台。交渉が叶い思いもかけず閉館中の会場を開けてもらえ、土俵近くまで入ることが出来、もう大感激。大満足の堺の旅であつた。高退協の旅はいつもひと味ちがう。またこゝ緒しませんか。(林)

俳句

十月十八日 土曜

春野町秋山 種間寺

合田青幹

種間寺と墨痕太く天高し

須く委細は了と爽やかに

吉本伸秋

滾滾と水ころげゆく里の秋

敗荷や泥に化けきり糞棲まふ

中内英明

蔵のある家の門辺の曇茶羅華

隠沼の蘆の穂絮の飛ぶ日かな

中内みち代

鶯の輪のだんだん遠く秋桜
浮雲をバックコスモス日和かな

小笠原さちを

一天に一声のあり鴟の秋

窠入れの音ばかりして帰り花

雑感

古仏をおろがむ

榊原忠彦

秘められし土佐の古仏に魅惑

され 拝み祈る新年の幸

(金葉市立美術館の企画展での拙抄三首)

六地藏木目も美しき檜彫り

童顔は語るらく眉目それぞれ

(大豊町定福寺地蔵菩薩立像)

貫之が往にし後に生れしと

ふ小さき立像は腰をひねりて

(室言市金剛頂寺金剛聖観音菩薩立像)

果物屋

山本晶子

新しく出来し小さき果物屋ことしも客がふえますように

奥さんはルーミアア人重きもの
買えば自転車に運びくるるなり

ネットにても果物売りにいると
言うこ主人の言聞きて安堵す

新年へ

叶岡淑子

景子さん、晋蔵さんらと永訣の
悲しみ深く年の瀬を越す

ヒマラヤの水壁に挑みし仲間も
いて二〇〇八年熟年快筆

新年へ世界の戦の火を消して
希望呼びたしイラクの子にも



訃報 小松晋蔵 さん

十一月十二日逝去

慎んでご冥福を
お祈りします

癌の勧め パートII

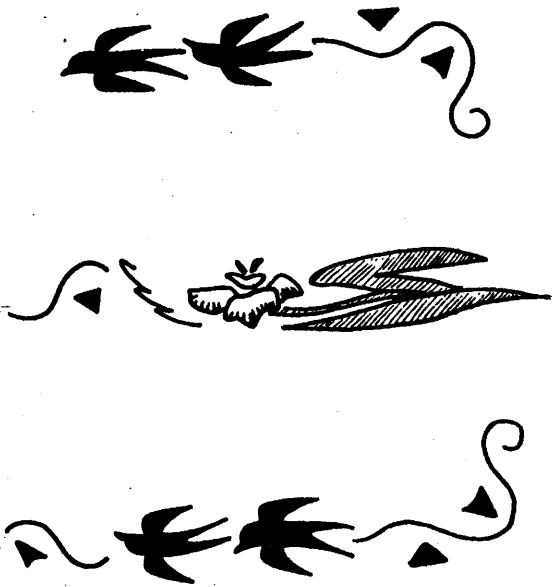
梶原 詳三

前号で島本さんが「検査の勧め」を書いたので、同じ胃癌を患った私の番だと、半ば強制的にくくりつけられ報告することになりました。二〇〇四年、定年退職を控えた三月、検査の補欠だった私はたまたまキャンセルがあり二泊三日の川之江のドックを受けることができました。その結果は「胃癌」の可能性の強い腫瘍があるとのこと。「退職後は遊びを中心にあんな事もこんな事もやろう」と考えていた私は、目の前が真っ暗になる衝撃を覚えたことでした。地元ですぐに診てもらおうと、「胃の内視鏡手術」で癌を除ける可能性もあるとのこと、内視鏡手術も行いましたが、病理検査の結果、

癌の因子がまだ残っていると、この場で、切除しか方法がないし、場所が悪いので全摘手術が最良とのこと、外科手術を受けることにしました。胃と胆嚢の全摘手術と約四十本のリンパ節の切除の五時間の手術も無事終わり、次のハードルは、二週間後にはつきりする「転移」の有無。切除されずに残っているリンパ節に転移していないかどうかというところでホッとしたことを覚えていきます。六十日の入院中も、退院したら好きなテニスをやりたいとリハビリに励み、退院後約一ヶ月でコートに復帰しました。現在は「週三回のテニスを楽しむ」ことを健康維持の中心とした生活です。「胃癌」になって分かったことは、その因子はどなたも持っていて、発症するか否かは、その人の食習慣、生活習慣、生活リズム、ストレス、

慣、生活リズム、ストレス、楽観的か悲観的かなどそれらの複合的な関係で発症すると思います。防衛の第一は「免疫力アップ」と言われています。私の場合、体質を変えないとまた癌になります。今までの生活を百八十度変える気持ちで生活することを基本にしています。ストレスを溜めないように、気ままに気楽に、人に迷惑をかけない範囲でわがままに楽天的に過ごす。食生活は早食いを止める。バランスの取れた物をできるだけ良く噛んで食べる。ビールなどを含め、冷たい物は少なくする。夕食後は食べない。規則正しい食事を摂る。風呂はゆつくり入り、身体を良く温める。免疫力アップのため、鍼灸やアガリスク、麗芝エキスを、チャイガなど、良いと信じて飲む。好きなことをやり無理をしない。頑張りすぎない。

私は検査のお陰で、癌を早期に見つけて現在も元気で生きています。同じテニス仲間でも、七十歳の人が、一年半前に胃癌の手術をした後三ヶ月で、この七月末には六十二歳の方が十二指腸癌で胃カメラで見つかって三ヶ月で亡くなりました。二人とも検査嫌いで、冷たい物が比較的好きでした。「癌は早期発見で治る」と言われています。検査が大切です。健康法として、参考にはなりません。術後間もなく五年、再発もなく生きていますので、以前よりは癌に罹りにくい体質にはなったと思っています。



中秋の一日

秋の訪れである。ある一日を日記風に書いてみよう。

4時45分起床、パンで朝食。恒例の朝の散歩に出掛けた。夜明け前である。まず観月団地を越え、湯の川温泉へ。西へ車道を辿って山道に入る。送電14号鉄塔への保線路である。登り詰めると、湯の森の稜線上に立つ観音像の真下に出る。ここから峠道を下る。やがて高速道路をくぐって万々へ。登校する子供達と朝の挨拶を交わしながら初月小学校前の柿内橋を渡り、久万川に沿って東進。土手にはピンクと白のコスモスが満開。この花の花言葉は知らないが「清純」ではなからうか。久万を

経て帰宅。素晴らしい秋晴れの空が広がっていた。植木の水遣りを済まして、予定していた柿の採集に取りかかる。去年ほどではないが、かなりの収穫が見込まれるようである。二十個ほど採って

秦泉寺成月日記

坪井 幹之

本日分は終了。次ぎは読書にかかる。眼を通していた本はホーガン作のSF小説で、再読していた。文庫本で五冊にわたる長編の物語で、三冊目まで読み進んでいた。内容の紹介と行きたいが、難解のと



川柳 (一〇句)

雑草の抄 三

ラーメンの屋台の裏で咲くロマン
宅急便母の願いが詰め切れず
壁紙をはがすと親父の泣いた顔
財布が老眼鏡に納まらず
お母さん時どき耳が遠くなり
長生きをしすぎてどうもすいません
顔色をうかがいながら注ぐお酒
道連れと曲がりくねって六十路過ぎ
吊し柿亡母のことなど話そうよ
低位置にふとんを敷いて妻を待つ